

加美町総合戦略審議会 会議録 (第10回)

1. 開催日時 平成30年6月21日(木) 午後1時30分～午後4時45分
2. 開催場所 【視察】 国立音楽院宮城キャンパス
やくらいボルダリング WALL
【会議】 加美町役場3階 第1会議室
3. 出席委員 9名
風見 正三, 大場 幸, 後藤 利雄, 跡部 香名
鎌田 良一, 寺川 成子, 中村 威, 菅原 尚孝
岸田 紗季
4. 欠席委員 5名
桑折 信也, 塚田 浩志, 宮内 佳樹, 伊藤 嘉則
清野 仁子
5. 傍聴者 20名(宮城大学生)
6. 加美町(事務局) 2名
加美町企画財政課 課長 熊谷 和寿
課長補佐 佐々木 実
地方創生推進係長 菅原 敏之
7. 会議の概要 - 次 第 -

3. 委員自己紹介

加美町観光まちづくり協会の人事異動により、伊藤英一委員の後任として鎌田良一事務局長が、七十七銀行中新田支店の人事異動により、小網大輔委員の後任として塚田浩志委員が審議会の委員に就任いたしました

4. 議 事

審議会の現地視察として、審議会からアドバイス等をいただきながら地方創生の交付金を活用して整備した「加美町音楽技能修得施設(国立音楽院宮城キャンパス)」及び「ボルダリングパーク

やくらい WALL」を視察しました

その後、地方創生関連事業の検証として、平成29年度に地方創生関連交付金を活用して実施した事業内容を報告し、各委員による意見交換を行いました。

委員からは、定住と仕事に結び付ける取組みや、整備した施設と町民をどのように結びつけるか、継続性のある取組みとしていくには町外からの顧客だけではなく、地域の人が身近に感じるなど地域を巻き込んだ仕掛けが必要との意見を頂戴しました。

5. その他

次回の審議会については、10月～11月を目途に平成29年度加美町版総合戦略における KPI の進捗状況を検証する予定です。

●第9回総合戦略審議会におけるキーワード

- ・定住の促進に向けた環境整備（町のサポートなど）
- ・地域住民との連携、関係強化

●次回以降の開催日時と内容

- ・第11回審議会 日時：10月～11月を予定
内容：加美町版総合戦略の進捗状況の検証

□ 議事内容

- 午後1時30分 役場西側駐車場集合・出発 —
加美町音楽技能修得施設（国立音楽院宮城キャンパス）の視察
・施設概要の説明 企画財政課 菅原係長

ボルダリングパークやくらい WALL の視察

- ・施設概要の説明 商工観光課 早坂補佐

First Accent Japan 村上代表

- 午後3時 やくらいボルダリング WALL 出発 —
車中にて地方創生事業の進捗状況及び平成30年度事業を説明

- 午後3時45分 会議 —

佐々木 補佐： 限られた時間ではありますが審議会を始めさせていただきます。先ほど車中においてお聞きぐるしい中、資料を確認していただきました。本日は資料についてご意見などを伺えればと思います。また、4月から観光まちづくり協会の人事異動により鎌田委員を新たに迎えておりますので自己紹介をお願いできればと思います。また、本日ご欠席となりましたが七十七銀行の支店長さんも代わられておりますのでご報告させていただきます。

鎌田 委員： 4月から観光まちづくり協会の事務局長に就任しました鎌田です。協会には昨年からの在籍しておりました。よろしく願いいたします。

佐々木 補佐： ありがとうございます。遅くなりましたが、私も4月に危機管理室から異動してまいりました佐々木と申します。前職は防災対策などをやっておりました。印象深かったのは最終処分場問題などがありまして、委員さんの中にも後藤部長さんなどいらっしゃいますが田代岳で反対活動を行ったのが印象深い業務でありました。4月から地方創生や空き家バンクに従事することになりました。まだまだ勉強不足ではありますが、皆さまからのご意見を頂戴しながら町づくり、人づくりに資してまいりたいと思いますのでよろしくお願いいたします。

それでは、ここで風見会長からごあいさつを頂戴したいと思います。

風見 会長： 皆さんお疲れ様でございます。この審議会は大変密に協議してきた時期がございまして、今日視察いただいた施設は皆さんが審議した内容に基づいて、町も地方創生として形作ったものであり、それを確認できた大変うれしい視察とな

ったと思います。地方創生は先ほども説明がありましたが、交流から定住にシフトしていくにはまだまだ道途上でありますので、進捗等々などについては是非とも建設的な意見をいただいて、時間もあまりありませんが、活発な議論をよろしくお願ひしたいと思います。

佐々木 補佐： 早速議事に移りたいと思います。進行については風見会長を座長にお願いできればと思います。資料の説明については車中で説明させていただきましたので割愛させていただき、皆さまからのご意見を伺うことを中心に進めていただければと思います。

風見 会長： それでは時間も限られておりますので、早速ですが岸田委員から順番にご意見を頂戴できればと思います。

岸田 委員： 私は地域おこし協力隊として移住して3年目を迎えております。現在は農業の研修をしております。日頃から国立音楽院の学生さんをお祭りなどで拝見したりとか、自分自身アウトドアが好きなのでカヌーをやってみたりとか色々と参加させていただいて、移住者としては大変楽しい日々を過ごすことができております。

本日色々と拝見した中で疑問に感じたのは、国立音楽院さんを卒業された方の進路です。楽器のリペアとして職人として独立、工房を自分で持つことが最終目標になるかと思いますが、その道のりには大変な困難が伴うと思います。音楽の仕事で町で創出していくといった場合の町のサポートとはどういったものが考えられるのか疑問に感じました。

風見 会長： 町として他所から人を呼び込む以上、定住と仕事に関する責任も生じてくると思います。戦略的に進めていかななくてはならないものだと思います。

菅原 委員： 加美町で保育園の園長をしております菅原です。私は子どもや親の目線から意見させていただきます。見学した施設のほかにランニングバイクなどすごく色々なことに取組んでいると、町民としてはワクワクする部分があります。

しかし、国立音楽院にしても、薬菜にしても休みの日に家族でちょっと遠出というイメージで外出するものであり、同じ町内として身近とは言え、やはり遠く感じてしまいます。ランニングバイクやボルダリング、音楽なども含めて素晴らしい施設が整っているものの、例えば公園などにちょっとしたボルダリングやランニングバイクが乗れる環境があって、休みの日であれば薬菜でやってみようかなど、身近な部分と素晴らしい施設がある部分での連携があると地域として連携していけるのではないかと感想を持ちました。

風見 会長： シンボル施設となっているが、地域とどうつながっていくかというご意見かと思います。

寺川 委員： 精工宮城工場の寺川です。よろしくお願ひします。今までぼんやりとイ

メージしてきたものを実際に見せていただき、感心いたしました。しかし、先ほどのご意見にもあったように、ちょっとやってみようというのではなく、ボルダリングなんかは練習も必要だと思いますので、薬菜だとどうやって通うのかという疑問に感じました。料金にしても本気でやる人でないとこのお金は払えないのかなという気がします。ボルダリングの施設は古川にもありまして、あそこであればふらっと立ち寄れる感じもありますが、薬菜まで通うとなるとどうすればいいのかなと思いました。本当にやりたい人を集めるのであれば月謝によるスクールなどが考えられます。マンスリーの料金も設定されていましたが、どうやったら通えるのか、親が送り迎えするのか、送迎バスとかを用意してもらわないと継続性に乏しくなるのではないかという印象を受けました。

風見 会長： 本格的すぎるということで、もう少しビギナー向けやアクセスについても検討の余地があるというご意見かと思います。町民向けのインセンティブなんかがあるといいのかもしれないですね。

中村 委員： 一つ一つはとてもいい要素を選んでいると思いますが、全て単品で終わっているんですよ。ボルダリングのポスターを見ましたけど、ボルダリングしか載っていない。何回も言っていますが、早く **WEB** をなんとかすべきだと思います。6次化にも携わっているのですが、あそこでも何か商品化してもどうやって販売していくか、継続していくかという課題があり、どうしても個人個人では無理があると思います。だから行政として色々な告知ができる **WEB** サイトを立ち上げるべきだし、やはり金を使わず広く薄く告知する部分と、仙台の客を狙うなら泉のじいちゃん・ばあちゃんを吸い上げていくだけの中身が伴っていないように思えます。アウトドアなんかで具体的なことを言うと、モンベルの仙台の店長なんかをアドバイザーにすべきです。我々が持っていない知恵を彼らは沢山持っています。彼らも企業だから商売をしなくてはならない。モンベルの会報誌にも加美町のフレンドショップなんか新しいから取り上げられています、取り上げられている内に捕まえておかないと彼らは逃げます。絶対に。そうならないためにも早く分科会なんかでもいいから、彼らを巻き込み、知恵をいただくべきだと思います。モンベルで言えばカヌーも強みがあり、加美町には立派なカヌー場もあります。ツール・ド・347 なんかの話もありましたが、それも単品で行うのは絶対に勿体ないと思います。カヌーもあるし、ボルダリングもあるし、パークゴルフもあるし、それぞれをもっと繋いでいくべきだと思います。田中陽気のグレートラバースなんか流行っているじゃないですか。そういう人を使って、カヌーなんかさせて、薬菜山登らせて温泉入って帰ろうねなんかを毎月やったりして。またその時間に子どもはバイク蹴っていればいいんだし。そういう魅せ方の工夫から広がるようにして、それでいて顧客も仙台の泉なんかにはきちんと絞った形で実施していかないと無理だと思います。やはり、目標値

なんかも掲げていてその達成に向けどうするのか具体的な案なんかも出ていませんし、売上なんかはマイナスとなっています。私も知恵だしますのもっとやってみましょうよと思います。

風見 会長： 広報戦略は審議会でも検討した内容ですのでその進捗なんかも後で報告願います。

鎌田 委員： 大変耳の痛いご意見も頂戴しております。昨年 sea to summit やツール・ド・347 を開催し、結果 133 名の参加という燦々たる結果でありました。今年はツール・ド・347 については 363 名の申込みとなっております。昨年の反省を踏まえどのように改善していったかということと距離を 100 km にしたことと 2 月から県内の自転車屋にチラシを配布して 4 月 1 日からエントリー開始を告知しました。その他にも WEB 申込みや無料のサイクル専門サイトの活用をしたところ 1 週間足らずで定員となり、さらに 100 名の追加募集をかけたところ 2 日で満杯となりました。どこにターゲットを絞って告知していくかということ、今回 2 つのサイトを基本的には無料で活用できたので良かったと思います。ただ、今後心配されるのは sea to summit の方で親しみやすいということしか売りがありません。自転車とカヌーと山登りの 3 つをやりという方は、言い方悪いのですが変わっている方でして、いわゆるエキスパート層には響かない地域特性があります。ターゲットを如何にしていくかということに悩んでおりましたので知恵をお借りできればと思います。

風見 会長： みんなで知恵を出し合いましょう。広告は大事ですからね。

跡部 委員： 加美商工会の跡部です。本日拝見させていただき大分力を入れているなという実感ですが、まず国立音楽院については非常に素晴らしい施設に対してまだ学生の人数が少ないというのが率直な意見です。如何にして学生を集めていくかというのが課題であるなというのが率直な感想です。またボルダリング施設やキックバイクを見させていただきました。私も町外から通勤している 1 人で、ボルダリングの会員にもなりましたが、先ほど寺川委員からの発言と同じように場所の関係もあり会員にはなったものの継続ができないという課題があると思います。私は商工会の代表としてこの審議会に参加させていただいておりますので、商工会としてどのような関わりが出来るかという視点でお話させていただきますと、商工会員は 800 名程度おりまして、その中でも町外からの通勤者を抱えている企業さんもたくさんいらっしゃいます。そのご家族なんか向けの PR 手段として私どもの会報誌なんかを使っていただいて、企業さん向けに PR していただくことにより、自動的に仙台圏だけではなく従業員さんの家族や子どもの利用につながるかもしれないので、そういうお金のかからない部分での協力はできるのではないかと思います。

風見 会長： ありがとうございます。次お願いします。

後藤 委員： 農協の後藤です。初めて両施設を拝見させていただき十分整った施設

だなどという印象を受けました。国立音楽院の特徴の1つに農業という言葉がありました。農業との連携という部分でJAとしてもどのような関わりができるか検討したいと思います。それから先ほどのボルダリングやキックバイク、カヌーの関係で、実は毎年農作業体験で仙台の白百合学園の受入れを行っているのですが風と雨のためにカヌーが中止となりました。今考えればボルダリングなんかの代替も可能であったと思います。しかし、それを思い出すことが出来なかった時点で町の周知も足りないのではないのでしょうか。子どもたちの農業体験は色々な所でやっています、遊びの中で自然と触れ合いを取り入れると子どもたちも大変喜びますのでその辺を上手く結び付けていければと思います。また、カヌーにしても何にしてもインストラクターが必要になってまいります。常駐とはいかないまでもその辺の手配も必要ではないのでしょうか。ツール・ド・347について、去年は片道コースだとか話がありましたが、実は息子がバイクをやっていますして仙台から山形に行き、347を通過して帰って来る、距離にして200kmくらいでしょうか、非常に良いコースだという感想のようです。もっともっと広げることができるのではないかと思います。また、347号はオジサンバイカーの隠れたメッカになっています。ですが中々立ち寄れるところがありません。山形に行けば道の駅なんかがありますが。実は、バイクに乗る人は薬莖に寄らないんですよ。そこをどうにかして取り込むことができればと思います。オジサンライダーはお金に余裕があります。バイクにも何十万、ジャケットにも30万円くらいかけるほどです。おじさんライダーもあと10年です。60〜70歳の時は一番金が使え、リターンライダーとして戻ってきますのでチャンスだと思います。何か手があるのではないかと思います。

風見 会長： 体験による交流というのも重要な要素です。次は、大場副会長お願いします。

大場 副会長： 私は役職柄両施設とも何度か拝見しておりました。まず国立音楽院についてであります。入学生徒の未達成という課題があります。加美町ではイカノエという移住定住などを戦略的に進める上で、国立音楽院の学生は移住という意味で大きなポイントになると思います。町で奨学金というのがありますが、これは今定員に達していない状況です。国立音楽院の場合奨学金の適用にはなりません。今後加美町に定住していただく上でも、起業意欲の高い学生さん向けに魅力ある支援やインセンティブを設けていくというのも学生集めの呼び水になるのではないかと思います。ボルダリング施設についてですが、今学校は働き方改革ということで部活動が休みの日を必ず設けることになりました。その休みの時に、あのボルダリング施設が基礎体力をつけるのに適しているのではないかと思います。部活動の休みの日に開放してはいかがかと思いました。また、もう1つ思ったのが小学校の学校間の交流が非常に少なくなっています。学校行事色々ありますが、そういう交流

事業としても利用されてはいかがかなと思いました。

風見 会長： 皆さまありがとうございます。簡潔にそれぞれの意見をお伺いできて何よりです。皆さまからのご意見の中に疑問点なども多々ありました。それについて事務局から簡単にお答えしていただけますか。

菅原 係長： 貴重なご意見ありがとうございます。まず岸田委員と大場副会長からご意見がありました国立音楽院の卒業生の起業についてですが、起業もそうですが、定住していただくためには加美町で職に就いていただかなくてはなりません。そこで、町では起業に意欲的な方を応援する補助金 30 万円のインセンティブをご用意させていただいております。しかし、30 万円では何もできないというのは前々から審議会からのご意見いただいておりますが改善できていない状況です。ただ、来年卒業生と定住の問題に必ず直面しますので、加美町での定住意欲、起業意欲を促す施策を検討してまいりたいと思います。中座されましたが菅原委員と寺川委員からご意見がありましたボルダリングを身近に感じるような工夫も必要だと思います。議会からも同様な指摘を頂戴しております。出来るところから取組んでまいりたいと思います。いずれにしても施設も供用開始したばかりでありまだまだ手さぐりの状態であります。皆さまからのご意見を踏まえ継続性のある施設活用を目指してまいりたいと思います。送迎というご意見もありました。薬菜ではプールの送迎もやっております。もしボルダリングの方でもスクールなどを考えていく場合にはプールの送迎と併せて行えるような運行体制を調整していければと思います。次に、風見会長と中村委員からご指摘のありました広告や WEB に関してでございますが、大変申し訳ありませんが中々進めることができず本当に悩ましいところでございます。ポータルサイト的な面としての見せ方についても検討いたしました。これにつきましては本審議会とは別なところで相談させていただいた際に、ポータルサイト的にあれもこれもという形で見せると薄まるという指摘を受けました。先ほど鎌田委員から発言がありましたように、サイクルイベントについてはサイクルサイトなど専門的な部分をターゲットにピンポイントで広告を打つことで、今回のように最小の費用で目標人数を大幅に上回る成果を挙げられた例もございますので、ターゲットは何か的を絞った広告戦略というのを今後していければと考えております。また、これまで活用できていないテレビについてもある放送局から打診がありましたのでテレビ広告というのも前向きに検討していきたいと考えております。次に、跡部委員から提案がありました会報誌の活用という部分は、我々の考えの足りない所でした。貴重なご意見ありがとうございます。これからイベントや施設の案内について商工会の会報誌で周知にご協力いただけたらと思いますのでよろしく願いいたします。次に後藤委員からありました雨天時に実施できなくなった自然体験の代替も貴重なご意見だと思います。思い出すことが出来なかったという事実もあり、

我々の周知が足りない点を反省し、そのような活用について関係機関と情報共有し、皆さまにおかれましても活用について周知をお願いできればと思います。また大場副会長からご意見のありました基礎体力の向上というご意見ですが、筋肉の細部である腱を鍛えるということにボルダリングが有用という説明を受け、部活動への利用について検討するというご意見かと思えます。中々すぐに開放という訳には行きませんが皆さまからの貴重なご意見を頂戴しましたので施設の有効活用という意味も含めて検討してまいりたいと思います。

熊谷 課長： 課長の熊谷です。本日行政区長の会議がありまして遅参となりました。申し訳ありません。それでは、若干補足させていただきます。先ほど国立音楽院の学生の状況が少ないというご指摘がありました。この件につきましては議会でも真っ先に質問されている部分ではありますが、何とか切り抜けてきた経緯がございます。今年から東北6県の学校訪問を国立音楽院と一緒にいき、国立音楽院と加美町のPRしてまいりたいと考えております。また、ひと・しごと支援室というセクションがありまして、今年には本校に伺いまして本校の学生に加美町をPRし、宮城キャンパスへの転学や加美町での就職、移住などを促してまいりたいと考えておえり、近い将来実施したいと思っております。また、卒業生が輩出されていないため実績不足であることも否めません。この進路をしっかりと見せることで学生や親に安心していただき、入学生の増加につなげていきたいと考えております。ボルダリングについては教室等を実施しているのかというご質問もございました。指定管理ということで**First Accent Japan**に3年間2,000万円をお願いしているわけですが、小学生等を対象にした教室も企画しているように伺っております。ただ、やはりその足が問題になっております。加美町には住民バスが運行しておりまして、薬菜への住民バスを走らせてもらえないかという要望もいただいております。教室等の内容が固まりましたら運行等についても検討してまいりたいと考えております。ボルダリング施設は4月5日にオープンしまして、これまで2,000人弱の方に利用されております。今年度の目標人数が8,000人ですので、1/4はクリアしたのかなと思えますし、これから迎える夏休み等利用してどんどん利用者数を伸ばしてまいりたいと考えております。それから振興公社の売り上げ減少に対する中村委員さんからの指摘がありました。議会において昨年度は2,400万円の赤字であると説明いたしております。その要因として、昨年度は天候に大分左右されてしまったようでありまして。夏場の長雨による影響が大きく赤字幅が大きくなってしまったようでありまして。薬菜に立地する各施設について個々ではなく各施設が連携して取組んでまいりたいと社長である副町長も話されていましてのでご理解いただきたいと思えます。

中村 委員： この薬菜施設群とは加美町振興公社のことだけですか。ガーデンとかは入っていないんですか。

熊谷 課長： 議会への報告義務が発生するのは町が出資している第三セクターと呼ばれるところで、こちらは加美町振興公社が管理している温泉や宿泊、プール、レストランあの辺一帯の施設になります。やくらいガーデンは積水さんが営業しておりますので全くの別会計になり、全く関与していない状況です。

風見 会長： ありがとうございます。この地方創生については我々も色々アドバイスしてまいりましたし、いよいよ動き出して数値も実績として見えるようになってきました。しかし、一番のポイントは事業の継続性にあります。数値が追い付いていない部分も当然多々あると思います。数値目標がある以上、それに近づくための集客性だとか、ターゲットやマーケットをどうするかということだと思います。私事で大変恐縮ですが、この後大崎市の審議会を梯子しなくてはならず時間で切らせていただくことをご了承願います。それでは岸田委員意見がありそうでしたのでどうぞ。

岸田 委員： お答えいただきありがとうございます。それでは1点だけ。国立音楽院さんでやろうとしている半農半 X (音楽) で、ソフトイメージの農的な作業に着手されようとしているところで、協力隊にも農業で従事されている方が沢山いますし、私自身今年はプランターと野菜の苗を提供しましたが、もっと一緒にやっていけたらいいなと考えておりますので何かありましたらよろしく願いいたします。

風見 会長： 嬉しい提案ですね。それでは、中村委員どうぞ。

中村 委員： ここにも移住定住につながるような夢のようなことを書いてありますが、正直なところ半農半 X というのは成り立たないと思います。本当の農作業というのはどんなに辛いものなのかということ、ああいう勉強をしている人たちに畦畔の草を刈りなさいといったら死ぬよ、絶対。半農半音ということで、農業を甘く見るなということではないけれども、本気で一反歩でもいいから何か作ってみろと言ったらキツイと思います。それよりも、農家の人出を引っ張って来るという考えで言えば、仙台の老人クラブなんかのじいさん・ばあさんなんかは田んぼやりたいと言っているんだよね。昔田んぼをやっていた経験があるみたいで何なら手伝うよって言っています。だから、趣味で農業をやりたいと考えている人は絶対にいます。ブルーベリー農園なんかでは収穫が大変だからって、ブルーベリージャム作りましようって人を集めて、収穫を手伝わせています。それに喜んでお金を払う人もいるわけであって、無理やり半農半 X にこじつけるようなことでは学生の姿を考えるとイコールに結びつかないと思います。ここは分けて考えていったほうが良いのではないのでしょうか。

風見 会長： 事務局いかがですか。

菅原 係長： その部分については方向転換させていただいております。生業としての農業というのはそんなに甘いものではないということは我々も理解しております。

しかしながら、東京では出来ないようなこと、田舎だからできるようなことを、それが土に触れる程度であれ、お話しにありました収穫を楽しみ、食堂を使って皆で食事を楽しみましょうということから始めさせていただいております。ですので、ご指摘のように半農半 X にいきなりチャレンジするのではなく、さわりの部分から始めさせていただきました。岸田委員からプランターと苗をご提供いただいていたことは把握しておらず大変感謝いたしております。学生も毎日水やりを楽しんでいるとは伺っております。

風見 会長： その他、後藤委員いかがですか。

後藤 委員： 後継者問題というのは実は凄く深刻な問題でありまして、お金が儲からないから農業後継者がいないというのはもちろんそうなのですが、それではなく、お金を持っていて農業をやりたいという人を如何に受け入れるかということを経協も真剣に考えなくてはならない時期に来ているなど実感しております。そこを一緒に考えると上手くいかないということもありますし、やはり知恵を出し合わなくてはならないと考えております。そういった意味でこの会から色々な意見を伺えればとも思います。農家は受入れを楽しみにしています。そういうことも含めて検討していけたらなと思います。

風見 会長： 農家の楽しさということを見出せていないと思います。新しい楽しい農業ということを打ち出してくる若い人たちが出てきてほしいと思います。そうすれば農業の明るさも変わってくると思います。

中村 委員： もう1ついいですか。先ほどボルダリングを見ましたが、あれはスキーで言うとゲレンデなんですよ。本当に楽しいのは自然であって、季節によって変わることが楽しいんですよ。先ほども先生にボルダリングの楽しさを突き詰めていくと、最終的には自然の岩にたどり着きましたよね。私もそう思います。仙台辺りではボルダリングスクールもたくさんあって、そういう所と差別化するとなればやはり加美町の自然を絶対に活かすべきであって、それとモンベルはあまり力入れていませんが、溪流釣り、あれもすごい所まで入ってやっているようです。イワナの溪流釣りとかボルダリングとか自然とアウトドアに合うと思います。先ほど言われたこともよく分かります。確かにあれもこれもとなるとダメになりますが、ポータルサイトとかはそうなりがちですよ。本当に加美町の自然の素晴らしさ、加美町には川魚が自生しているとか、これは漁業権とかクリアしないといけない課題もありますが、何かこう自然というものを繋げていけないかと思います。加美町は宝庫と言えれば宝庫ですよ。そういうアイテムを使っていかないと宿泊の増なんか書いてありますが実現は難しいですよ。そういう1日で遊びきれないものを繋いで泊まらせるような仕掛けをね、他人事になっては駄目ですね。私も考えていきたいと思います。

風見 会長： 商品開発やブランド化でもそうですが、ストーリーというのが大事で

して、こういう課題が浮かび上がってきたことは非常によいことです。課題を戦略的に解決することで、出てきた芽が竹林になるように総合力と言いますか、繋ぎを是非ともやっていただきたいと思います。どのように繋げていくかということは今後も検討していきたいと思います。

本日はゼミ生を連れてまいりました。加美町のまちづくりがどのように進んでいるのかというのを見ていただきました。お許しいただければ若い目でどう思ったのかというのをゼミ長に伺いたいと思います。

丹野 ゼミ長： 宮城大学事業構想学部3年の丹野と申します。今の審議会を伺って、また施設を巡って総合的に感じたことがあります。半農半 X の両立は確かに難しいと思いますが、先程国立音楽院を訪問した時にリペアラーは辞めていく人が多いと伺いました。その辞められた方の多くが何をするかというと、都会に行って就職するのがほとんどだと思いますが、その時に加美町の自然を思い出すような、部活とかで農業やったなとか、農業の体験したことを思い出して加美町に戻ってくるようなきっかけづくりをしていくことが非常にいいなと思いました。部活として農業体験を取り入れるなど若い時の思い出を作っていくことが脳裏に残り、加美町へ戻るきっかけになるのではないかと思います。また、国立音楽院の入学生徒の増加については、加美町は仙台の人からすれば来づらい場所にあるイメージが強く、オープンキャンパスを開催しても参加を募るのが難しいと思います。仙台市内の高校を重点的に訪問して楽器作ってみませんかとか直してみませんかなど、興味を持ちそうなことでも知らないというのが現実だと思います。まずは、知るきっかけづくりが大事だと思います。例えば仙台駅前のブースを使って、体験オープンキャンパスなんかを実施して、実際に体験させてみる、生徒に見せることで音楽の仕事に興味を示す方も現れるかと思います。実際に私も見させていただいてすごく興味がわきました。百聞は一見にしかずと言いますが、高校生に見学させる機会をつくるのが重要かと思いました。

風見 会長： これまでの話をまとめると1つは定住をどう考えるか。やはり雇用、出口がはっきりと見えていないのが国立音楽院の生徒数の伸び悩みに響いていると思います。しかし、加美町はライフスタイルは素晴らしいポテンシャルがあると思います。快適な暮らしができる場所に仕事を如何に作り出すかということですよ。これを戦略的に考えていただき、形にさせていただきたいと思います。しかし、そこでどのような暮らしができるのかという提案がないことにはどんどん広がっていきません。それと、広報です。今の学生の仙台という意見もそうですが、どこに広報を戦略的に投下するのかということ。興味のある人や影響力のある人を引っ張ってきて広報させながら定住を引っ張るといった戦略をより具体的に立てていただきたいと思います。

それから地域主体ということをおぼろげに忘れてはいけません。せっかく作ったものを地域の誇りだと思っただけでいただかないと永続的にはなりませんので、そこは地域の方々とどうコミュニケーションを取っていくかということ、興味を引き出すような仕掛け、ビギナーの人向けの講座の開催など地域と結ぶ付けることをしっかりとやっていたきたいと思います。

いずれにしても、今日見ていただいた施設というのは、審議会で総合戦略をつくり上げ、それを具現化した施設であり、皆さんは非常に大きな貢献をしてくださったと思います。逆に言えば、皆さんには生み出したという責任もありますから、皆さんも永続的に続くようにお力添えを、地域に根付いた取組みとなるようによくご協力をいただきたいと思います。

佐々木 補佐： 大変ありがとうございました。その他について事務局から連絡申し上げます。

菅原 係長： 昨年度は審議会1回の開催となりましたが、本年度は2回開催させていただきますと思います。今秋10月頃を目途に総合戦略全体の進捗状況をご報告させていただきますと思いますし、ご提案いただいております魅せ方について意見交換させていただきますと思います。

佐々木 補佐： 本日の議事については全て議了いたしました。閉会にあたりまして大場副会長から一言頂戴したいと思います。

大場 副会長： 10回目の総合戦略審議会大変ご苦労様でした。本日は宮城大学の学生も傍聴され風見先生を筆頭に建設的な議論がされました。われわれが作り上げた計画が将来につながるよう、審議会でも知恵を出し合い、加美町の住民からボルダリングにしても国立音楽院にしても本当に良いものを作ってくれたと言われるよう皆さんの知恵を力をお借りし、成功させていきたいと思っております。これからもよろしく願いいたします。本日はありがとうございました。

— 午後4時45分 閉会 —